

たわわ	新2002年1月28日
TAWAWA	19号
地域で生きる障害者を支える会通信	「地域で生きる障害者を支える会」 会報
	住所：横浜市港北区下田町6-31-8
	活動ホーム「しもだ」内
	TEL045-562-3600
	FAX045-562-5991

— 会員それぞれの思いを集め —

2002年の新しいステップを

2002年になりました。昨年は慌ただしく、密度の濃い年であったと思います。支える会も、グループホームの運営委員会の立ち上げ、住居の設計から建設、そしてオープン。息つく間もなく国際絵画展と、随分たくさんの方々との出会いがあり、多くの会員の協力が実った年でもありました。

当初「支える会」の活動は、親が中心になって組み立ててきましたが、一つ一つの事業を成し遂げる度に、会員の輪が広がってきました。

これからも一つ一つ、私たちにあったやり方で確実に積み上げていければと思います。

* * *

グループホームでいえば、昨年10月にオープンしてより、週4日の宿泊から始め、月曜から金曜日までの5日間通しての宿泊が可能になりました。またホームヘルパーや訪問看護センター、医師との連携を密にしながら体制を整えてきました。グループホームは生活の場ですので、地道な日常の活動を確実にこなしていかなければなりません。その上で初めて足りないもの、補う必要のあるものもきちんと見えてくるのだと思います。

この前は、入居者、職員が風邪を引き、ホームを3日ほど閉鎖しました。みんなそれぞれの自宅で療養することとしました。本来グループホームは家なので将来はこのような方法を探らずに解決できるようにしなければならないと思います。

スタッフの充実が、当面の課題です。

* * *

資金作りでは、今月末にほるぶA&I社よりの入金があり、ようやく現代国際巨匠絵画展の事業が終了致しました。お陰様でほぼ目標を達成。大変お世話になりました。

また家族会の手作り品販売、不用品のバザーなどの売り上げも、年度末には入金されます。今後バザーへの取り組みは、地域交流を兼ねて考えていきたいと思っています。

さらに次のグループホーム設立に向け、資金をふやしたいところです。

会員の声

「よつば」へ行くようになって4年近くが経ちます。年に数えるほどしか行けないため、ドアを開けるときの一瞬不安な気持ちが湧くのですが、明るく迎えてくれる所員と職員さんの声が、いつもそのためらいを吹き飛ばしてくれます。そして帰る時にはほのぼのとした気持ちに満たされ、私の方が皆さんから素敵なものを与てもらっているのだなあ、と思いながら家路に就くのがいつものことです。

それ以前に伺っていた重度障害者施設では、スタッフと家族の方達によってすべてが運ばれ、外部の人はほとんど手を出せる場がありませんでした。それが普通だと思っていたので、見学のため初めて「よつば」に伺った時に、ごく当たり前のように全身運動や食事の介護をしたり、一緒にゲームをさせられたのには本当にびっくりしました。でもその身体を触れ合う場を経験して、それまで障害を持つ方に接しても自然にふるまえないでいた偏見の壁が、私の中でスーッと消えていくのを実感しました。若い職員さんが所員の方と一緒に造りあげてきたアットホームな「よつば」の雰囲気や、「よつば」を支えるボランティアの方々との暖かいふれあいを、心から楽しませてもらっています。

最後に、とても素敵なグループホーム「よつばホーム」を見て、お母さま方やご家族及びまわりの方々の、夢の実現に向かっての絶え間ない努力と、そのパワーのすごさに本当にびっくりしています。でも最近このパワーの本当の源は、地域の人達や行政をも動かさずにおかない、障害者の所員さんの持つオーラにあるのかもしれないと思うようになりました。まだ、初めの一步だと伺いましたが、これからも「よつばホーム」の実が、ひとつひとつ“TAWAWA”に実ることを祈っております。

(西脇 久夫)

学習会は、2月25日に、神奈川県こども医療センターの山田先生のお話を聞く会を企画しました。障害の重い人たちを自立させていくには、なみなみならぬ決意がありました。また決意してなお多くの不安を払拭できないというのも実情です。これからもお互いに学びつつ、励まし合いつつ新しい地域生活のありようを探っていきたいと思えます。

* * *

会員一人一人の力を合わせることによって、より力強い活動ができる会に育って行くことを願っています。



絵：福田次郎

⑤ 講演会のお知らせ ⑤

長らく重症心身障害児の医療に取り組まれ、重い障害児の地域生活を支えてこられた山田美智子先生を迎え、お話を伺います。

重い障害を持った人も自立し、親と分離して生きることが必要。その時の医療はどうあるべきか。楽しい生活、質の高い生活の中で命を輝かせたいとお考えは、私たちの活動を勇気づけてくれると思います。ぜひ多くの方のご参加をお待ちしております。

日時：2月25日（月）10時30分より

会場：港北区社会福祉協議会3階（団体交流室）

*港北区役所となり

講師：神奈川県立こども医療センター重症心身障害児施設長

山田美智子氏

この前 車で豊橋へ行きました。

今は 高速道路の パーキングエリアが きれいに作られています。トイレに行くのも 雨よけの屋根が出来たりして 便利になりました。

トイレの中も おむつ交換もできるベットや 台が作られて ちゃよとこしかけることも 出来ます。

また 普通のトイレの中にも 障害者や お年よりや 赤ちゃんも 利用しやすいものも 作られています。

このごろは きまりが出来てから街の中の段差が 少なくなったり、いろいろと便利になって来ましたが まだまだ不便なこともあります。

大きなスーパーや ホールなどで立派なトイレが出来ても 入り口が 大きな車イスでは 曲がれずとても入りにくかったり 通路に 荷物があったり することがあります。

また この前行った 博物館では 展示台が高すぎて見えにくかったです。

レストランのテーブル等もつかいにくい所があります。

家のそばの 個人病院では せっかくエレベーターが つけられたのに エレベーターを下りようとしたら 入口に荷物が 積んであつて出られなかったり ときどき大あわてをして あとで母と大笑いをすることがあります。

でも みんな親切だし 前にくらべれば お年よりや車イスの人をよく街で見るようになったので よかったなと 思っています。

今年は 街の中のこまかい事も考えて行きたいなと思います。

大原友子

今月のよつばホーム

お正月、ゆっくり実家で休んで美味しいものもいっぱい食べたそうです。食欲が少し落ちてしまった人もいましたが、大きな体調の変化もなく、新年が始まりました。

みなさん変わりなく、ゲームやビデオ、音楽を聴きながら過ごしています。新年の出来事を色々と教えてくれたりと、スタッフやヘルパーさんとおしゃべりに花を咲かせています。

ここで、入居者の日々の生活を支えて下さっているヘルパーさんからの声を紹介したいと思います。LST介護サービスセンターのチーフヘルパー富岡レイ子さんです。

以前、地域作業所よつばホームでボランティア活動をさせていただき、皆様とかかわった事がありました。

重度障害を持ちながら皆さんが明るく職員と共に懸命に頑張っている様子に深く感動致しました。特に所員のお母様方がたくさんの困難を乗り越えて前向きに明るく力を合わせてサークル活動、バザー出店とひた向きに努力され、資金集めに日々苦慮されている姿に深く感銘致しました。

それ等の影響を受けて、私も福祉の道に進む事が出来ました。

くしくもよつばホームの皆様と再びかかわる事が出来、ヘルパー派遣の担当をさせていただき感謝致しております。

福島、吉野、佐々木、野口、富岡各ヘルパーが朝、夕の生活のお手伝いをさせてもらっています。一声ずついただきました。

○若い皆様とかかわって元気をいただいている。

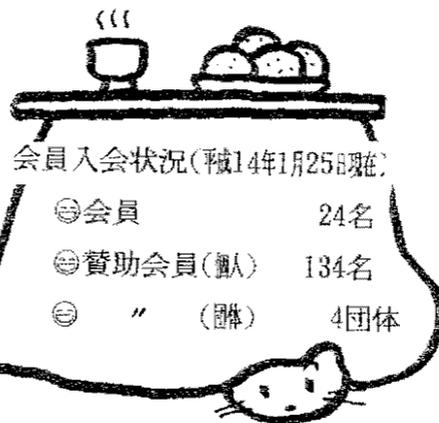
○勉強させてもらっている。

○恵まれた環境の中でお世話させていただき感謝している。等の声がありました。

地域の中で障害を持った方が明るく、元気で生活していけますようにヘルパー一同、力を合わせて支援させていただきます。今後ともよろしくお願い致します。

編集後記

来月“TAWAWA”は、20号を迎えます。続けることの大変さを編集長共々、日々感じています。いつも、ホッと息を抜く間もなく、次号の話を始めなければなりません。孤独な作業も多かったり…愚痴の1つ、2つは許してください。前号の時は、発送の作業をたくさんの方々にお手伝い頂き、とてもうれしかったです。ありがとうございました。皆様の近況、意見、疑問、カット、色々な情報などをお寄せ頂けると、また一味違った“TAWAWA”になりそうな気がします。皆様からのお便り、お待ちしております。



1月の報告

21日 学習会

60
の
声

